

『インカレ改革 1 年目（ロング）を振り返って ～将来への提言～』

実行委員長 山口尚宏

本年のインカレ（インカレロングディスタンス競技部門）が秋開催となることにより、日本学連が主催するインカレと他団体が主催する秋の各種大会の同時開催が可能となり、インカレは愛知県協会が主管する外部大会〔東日本大会〕と同時開催となった。

本年のインカレではインカレ改革 1 年目として、日本学連の外部団体〔愛知県協会（NPO 愛知県オリエンテーリング協会）〕との共同主管、現役学生との関係、JOA（日本オリエンテーリング協会）との関係の 3 点の特徴があった。

従来からのインカレと変わったその 3 点を紹介し・評価し、今後への提言を行う。

● 今回の大会の運営状況

まずは今回の大会全体の運営状況をインカレ（インカレロングディスタンス競技部門）と同時開催外部大会〔東日本大会〕の双方が分かるような状態で次に示す。

次ページ以降の解説と照らし合わせながら読んでいただきたい。

準備項目			日本学連 インカレ 実行委員 会、イベン トアドバ イザー 〔OBOG2 名で構成〕	日本学連 インカレ 実行委員 会 〔現役生 学連幹事 +有志で 構成〕	愛知県協 会 〔事前数 10名+当 日運営人 員 90～ 100名〕	外部委 託：日本旅 行	
大会 前・ 大会 後作 業	IC	東	競技：地図調査、コースセット			○	
	IC	東	競技：イベントアドバイザー確認、試走	○		○	
	IC		運営：宿泊	手配			委託先
	IC		運営：愛知県内交通		手配		委託先
		東	運営：愛知県内交通			手配	委託先
	IC		運営：各地方からの交通		手配		委託先
	IC		要項作成	○	協力		
		東	要項作成			○	
	IC		エントリー		○		
		東	エントリー			○	
	IC	東	プログラム作成	協力	協力	○	
	IC		プログラム配布		○		
		東	プログラム配布		○	協力	
	IC		報告書作成・配布	協力	○		
		東	報告書作成・配布			○	
	IC		ホームページ		○		
		東	ホームページ			○	
IC	東	渉外：地元渉外、マスコミ PR			○		

	IC		渉外：対 JOA 渉外			○		
		東	渉外：対 JOA 渉外				○	
	IC		広報：広告依頼、			○		
		東	広報：広告依頼、会場申込				○	
	IC		会計			○		
		東	会計				○	
		東	大会後地図販売、地図管理				○	
前日 当日 運営	IC	東	競技：コントロール設置、本部、スタート、フィニッシュ、IT、救護、	コントロール確認			○	
	IC	東	運営：会場設営、演出、資材準備				○	
	IC		運営：式典	○	メダル手配			
		東	運営：式典				○	
	IC		受付	○	協力			
		東	受付				○	

※「○」がその項目の準備を担うとし、「協力」がその準備をサポートする。

●今回の大会の特徴（1）学連外部団体（NPO 愛知県オリエンテーリング協会）との共同主管

従来のインカレでは学連 OBOG が主体となる実行委員会で運営の全てを担当してきた。それに対して今回のインカレは、インカレが外部大会〔東日本大会〕と同時開催となることにより、外部大会を主管・運営する他団体〔愛知県協会〕にインカレの運営の一部を担っていただくことが可能となった。

大会運営を運営する動機面から考えると、インカレのみの大会を他団体〔愛知県協会〕が運営する可能性は残念ながら小さいと考える。今回のように、外部大会のついでにインカレを運営していただく、という位置付けであれば、他団体〔愛知県協会〕に運営の一部に協力していただける可能性はかなり増えるだろう。

実際は今回のインカレでは一部という範囲を大幅に超えて、事前準備の中で大きな位置付けを占める「地図調査・コースセット」と当日運営の中で大きな位置付けを占める「競技部門全て」「運営（会場設営、演出、資材準備）」を他団体〔愛知県協会〕に担っていただいた。

外部大会〔東日本大会〕とインカレを別日・別大会として運営するのに必要な作業量と比較して、外部大会〔東日本大会〕とインカレを同時開催するのに必要な作業量は大幅に少なく済み、少ない作業量で大勢の参加者にオリエンテーリングを楽しんでもらうことができた。愛知県協会側のメリットとしては、世界選手権プレ大会の1つである今大会により多くの参加を得ることができ、インカレ側のメリットとしては、実行委員会の負担が格段に少なく済んだと考えている。

大会の会計面は日本学連理事会が愛知県協会との交渉を担い、外部大会とインカレは別会計となった。外部大会会計から地図作成・競技・当日運営・大会プログラムに関わる費用の大部分を支出し、インカレ会計から式典費用・大会報告書の限られた部分を支出した。インカレ会計から外部大会会計へ運営費用として、一定金額（140万円）＋参加者×500円を支払った。

●今回の大会の特徴（2）現役学生との関係

従来のインカレでは学連 OBOG が主体となる実行委員会で大会準備の全てを担当してきた。それに対して今回のインカレは、現役学生に可能な限り最大限の準備（競技面を除く全て）を担当していただいた。

具体的には、日本学連幹事を中心とする10名ほどで現役学生が担う「エントリー」「ホームページ作成」「広報（広告依頼）」「会計」の各パートが組織された。現役学生実行委員のトップは、実行委員会内全体の副実行委員長となり、運営の現役生担当部分の総括・フォローを行った。

これら(1)(2)により、学連 OBOG が担当してきた従来型のインカレ実行委員（学連から派遣されるイベント

アドバイザーを含む) は、わずかに 2 名 [実行委員長+イベントアドバイザー] となった。従来の実行委員会が 30~100 名で構成されてきたことを考えると、従来型のインカレとは大きく異なる運営形態となった。

●今回の大会の特徴 (3) JOA (日本オリエンテーリング協会) との関係

従来のインカレは JOA が関与する公認大会とは無関係であった。それに対して、今回のインカレではインカレの上位者に JOA 公認大会 E 権が付与されることとなった。これは、愛知県協会がインカレ同時開催外部大会を JOA 主催東日本大会にするよう申請したため、インカレ参加者が JOA 主催東日本大会に出られないことへの救済措置として位置付けられた。JOA との交渉は、2003 年 10 月~2003 年 12 月にかけて愛知県協会の後押しを受けて日本学連理事 [JOA 担当理事]・幹事長が行った。

MIE/WIE	6 位までの入賞者に 2004 年度全日本大会 21E 権 20 歳以下出場者全員に 2004 年度全日本大会 20E 権
MF/WF	3 位までの 20 歳以下入賞者に 2004 年度全日本大会 20E 権

昨今の JOA 主催大会・公認大会数の減少を考えると、インカレと同時開催される外部大会が JOA 公認大会となった際のインカレ参加者への JOA 公認大会 E 権救済措置は、今後もあった方が望ましいと言える。今後も救済措置が認められるか?インカレのどの層にどのような E 権を与えればいいのか?という方向性は、その都度交渉を続けていく必要があり、今回の交渉成功は JOA との交渉の上での実績の 1 つとなると考える。

今後の E 権付与の一つの例は次のように挙げられる。(インカレ MIE/WIE を東西日本大会の 21A, MUL/WUL を 20A にそれぞれ近いものと捉えた場合)

MIE/WIE	優勝者に当該年度全日本大会 21E 権 優勝~6 位までの入賞者に翌年度全日本大会 21E 権 20 歳以下出場者全員に当該年度全日本大会 20E 権
MUL/WUL	優勝~3 位までの 20 歳以下入賞者に当該年度全日本大会 20E 権
MF/WF	20 歳以下優勝者に当該年度全日本大会 20E 権

●評価

上記(1)(2)(3)を次のようにまとめる。

○運営総負担軽減で日本学連・外部団体 [愛知県協会]・参加者へメリット :

外部大会[東日本大会]とインカレを同時開催するのに必要な総作業量は別個開催と比べて大幅に低減。大勢の参加者にオリエンテーリングを楽しんでもらうことができ、昨今数少ない 1000 名超過大会開催。

○インカレ運営を現役学生自らが担う時代へ :

インカレ開催で最もメリットを受ける現役学生がインカレ運営に参加

○インカレと JOA 公認大会の共存が可能に

各運営主体が受けるメリット○・デメリット×メリット○・デメリット×は次のようになった。

各主体	メリット○・デメリット×
日本学連	○インカレ単独開催による会計赤字の可能性の低減
実行委員会 (OBOG)	○従来インカレと比べて運営負荷低減 ×運営回数が減ることによる運営スキル低下
実行委員会 (現役学生)	○OBOG のインカレ運営負荷を低減することによりインカレ継続開催を維持 ×従来インカレと比べて運営負荷増加
外部団体	×外部大会単独開催と比較して運営負荷若干増加

○外部大会単独開催による会計赤字の可能性の低減 ○大会開催後に良質な地図が資産として手元に残る
--

●今後への展望 ～日本学連と外部団体との共同主管大会今後のスタイル～

今回のインカレを踏まえて、今後のインカレロングのスタイルの一案を考案し、次に示す。

前述の「今回の大会の運営状況」と比較して読んでいただきたい。

準備項目			日本学連	日本学連	外部団体	外部委託	
IC：インカレ部分の作業を示す。 同：同時開催外部大会部分の作業を示す。			インカレ 実行委員会、イベントアドバイザー [OBOG 数名で構成]	インカレ 実行委員会 [現役学生で構成]	[事前数 10名+当日 運営人員 90～ 100名]	旅行会社	
大会前・大会後作業	IC	同	競技：地図調査、コースセット	○		○	
	IC	同	競技：イベントアドバイザー確認、試走	○		○	
	IC	同	運営：宿泊手配			○or手配	委託先
	IC	同	運営：開催都道府県内交通			○	委託先
	IC	同	運営：各地方からの交通		○or手配		委託先
	IC	同	要項作成	○	○	○	
	IC	同	エントリー		○		
	IC	同	プログラム作成	○	○	○	
	IC	同	プログラム配布	協力	協力	○	
	IC	同	報告書作成・配布	協力	○	協力	
	IC	同	ホームページ		○		
	IC	同	渉外：地元渉外、マスコミ PR			○	
	IC		広報：広告依頼 OBOG、会場申込		○		
		同	広報：広告依頼地元企業			○	
	IC	同	会計			○	
IC	同	大会後地図販売、地図管理			○		
前日当日運営	IC	同	競技：コントロール設置、本部、スタート、フィニッシュ、IT、救護、受付	協力		○	
	IC	同	運営：会場設営、演出、資材準備	協力		○	
	IC	同	運営：式典	○	賞品手配	○	

※「○」がその項目の準備を担うとし、「協力」がその準備をサポートする。

実際の分担範囲は各大会毎に個別に決めるものであり、上記はあくまで一案である。

基本的なスタンスは今回の大会を踏襲する。インカレを外部大会を同時開催することにより、大会の総負担量を減らし、学連・外部団体 [愛知県協会]・参加者の全てへメリットがあるような大会としたい。またインカレ開催で最もメリットを享受する現役学生は、事前準備など可能な範囲で運営負担を担うものとした。

○今回の大会からの改善点

今回の大会では、宿泊輸送、要項作成、ホームページなど大会準備の一部の項目でインカレ実行委員会と愛知県協会がインカレ・東日本大会部分を別個に作業を行っていた。これを統合し、実行委員会と外部団体で準備項目ごとに準備作業を分担し、大会運営全体の低減化を図る。上記の表を各運営主体の作業項目毎に分類すると、次のようになる。

運営主体	作業項目
実行委員会（OBOG）（現役学生）・外部団体共同	要項・プログラム作成
実行委員会（OBOG）・外部団体共同	地図調査，コースセット，試走，前日当日運営
実行委員会（現役学生）主体	エントリー，各地方からの交通，報告書作成，ホームページ運営，会場申込受付
外部団体主体	宿泊手配，開催都道府県内交通，地元・マスコミ渉外会計，大会後地図販売・地図管理

○共同実施大会のスタイル

今回の大会では、準備の作業量はインカレ実行委員会<愛知県協会であり、大会会計はインカレ=東日本大会並列であり、各大会の位置付けはインカレ=東日本大会並列であり、大会はインカレ・東日本大会同時開催であった。

これに対しては大きく分けて次の3つの考え方があり、今後大会毎に個別に考えるべきものである（今回の大会は案1に近い）。今回の大会のようなインカレ会計・外部大会会計並列に限らず、大会会計をどちらか1本にまとめてしまう場合も考えられる。

	準備作業量、大会会計	各大会の位置付け	大会のイメージ
案1	実行委員会=外部団体	インカレ=外部大会	インカレ・外部大会同時開催
案2	実行委員会>外部団体	インカレ>外部大会	インカレの一部のクラスを外部大会として指定
案3	実行委員会<外部団体	インカレ<外部大会	外部大会の一部のクラスをインカレとして指定

●インカレの継続的開催を願って

以上、今回のインカレロングについて若干考察した。OBOG，現役学生1人1人がインカレを主体的に考えることより、インカレが継続して開催されることを切に願う次第である。